2012 年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

Y. M. 社会システム学科　３年次

Ⅰ．留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

留学に行くことが決定してから出発までの期間は、留学先で英語力をより向上することが出来るように、出来るだけ耳を英語に慣らしておこうと、洋画や海外のニュースなどを積極的に観るようにしていました。英語のサブタイトルや記事のあるものを選ぶことで、リスニング力だけではなくスピーキング力も備わっていくような感覚がありました。また、教科書などとは違い、日常生活などふとした瞬間に使えるフレーズや言い回しに出会うことが出来るので留学前の準備体操には調度良いのではないかなと思います。何よりも、参考書を読むなどの堅苦しい勉強法ではなく、自身が楽しんでいるうちに英語力をつけることが出来るのでおススメです。しかし、やはり知っている単語が多ければ多いだけ、現地でのコミュニケーションや授業などの勉強で役立つと思うので、単語帳を新しく買う必要はないと思いますが、大学受験で使用されたもの（システム英単語など）を覚えなおすくらいはやっておくと良いと思います。ビザなどの手続きは留学舎様に委託させて頂いたので何の問題もなく取得することが出来ました。そのような事務的なことや勉強以外のこととしては、留学先で旅行など出来るようにアルバイトをしてお小遣いを貯めていました。あと、出発前にたくさんの友達と会いました。友達に会い、話をすることで励まされたり、少し不安がほぐれたりして、精一杯頑張って来ようという気持ちになれました。

②現地到着後

現地空港に着き、入国手続きに並んだ時点で、周りの人々の多国籍さに驚いたことを覚えています。また、ビザでの入国審査の際の雰囲気が怖くて緊張したことも覚えています。（笑）空港で現地の留学会社の人に予定通りピックアップしてもらい、そのままホームステイ先まで車で送って頂きました。飛行機での長旅の疲れからか、あまり気分が良くなかったので、ホームステイ先に着いてすぐに自分の部屋で休憩させてもらいました。次の日から２日間ほど学校に通い始めるまでの自由な時間があったので、２週間ほど先に現地に着いて生活していた友達と会って、ダウンタウンを軽く案内してもらったり、ホストマザーにバスの乗り方を教えてもらって、適当に町を探索しました。語学学校初日には、反対方向の電車に乗るなど、朝からソワソワしていましたが、友達に会い、先生たちも優しい雰囲気で迎えてくれたので楽しく終えることが出来ました。すでにトロントに１年ほど暮らしていた友達がホームステイ先にいて、その友達がトロントの楽しい場所や、友人を紹介してくれて、毎日本当に楽しく過ごしました。

③語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

ダウンタウンの中心となる駅からほぼ直結でしたので、とても通学しやすかったです。施設も充分にそろっていました。教室も少人数用から大人数用まであり、それぞれの授業に合わせて、先生と程よい距離でコミュニケーションを取れました。また、学校の入っている建物の１階にカフェがあるので、ランチタイムや放課後に友達と談笑するのにも便利でした。学校の周りにフードコートやショッピング出来るところがいくつかあったのも良かったです。

◆授業内容、課題、試験

前半に受けていた授業は大学入学への準備のような内容で、授業内容も頭を使うものが多く、課題も多かったですが、大学でのエッセイの書き方やリサーチやプレゼンの仕方などでしたので、後々とても役に立つものばかりでした。課されるテーマが興味の湧くものだったので、困難ではありましたが、より積極的に、自分が納得できるまでやろうという気持ちで取り組めました。先生方も優しく、面白く、また、献身的にフォローして下さいましたし、頑張れば頑張った分評価してくれました。授業期間終盤の一番大きなエッセイとプレゼンを終えた時には、先生とクラスメイト皆でパーティーをして、とても楽しく、充実感をもって終えることが出来ました。後半にとっていた授業は、レギュラーコースのライティングのクラスと TOEFL 対策用のクラスでした。ライティングのクラスではクイズやゲームなどをして、とてもカジュアルな雰囲気の中で勉強し、また、たくさんの友達が出来ました。TOEFL 対策用のクラスでは、クラス全体のレベルがとても高いように感じ、また、内容も、決められた時間内に自分の考えを構成し自分の言葉で話す、書くといったものでしたので結構ハードではありました。しかし、そういった実践的な能力は TOEFL だけではなく日常生活でも必要となるものなので、その頃から少しずつスムーズに英語を話せるようになっていけたようにも思います。

④正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

自分が割り当てられた寮は比較的一番キレイな寮でした。ミールホールからは遠い位置にありましたが、スチューデントセンターや図書館から近く、そこに行く用事が多かった私には良かったと思います。しかし、パーティーレジデンスと呼ばれていたくらいパーティー好きな寮でもありましたので、勉強が必要な時には、ほとんど図書館やスチューデントセンターにいました。図書館は少し古い感じがしますが、たくさんの生徒が勉強していても静かで、スタッフも親切に対応してくれますし、本当に集中できる空間でした。また、館内にカフェがあり、コーヒーで目を覚ましたいとき、小腹が空いたときにはよく利用しました。ミールホールにはバラエティ豊かな食事が用意されており、デザートや飲み物まで充実していて自分が好きな物を思う存分食べることが出来ました。私がお気に入りだったのはサラダバー、スムージーを作ってくれるドリンクスタンド、アイスクリームサーバ

ーでした。夜遅くに行っても夜食が用意されていて、たくさんの生徒が利用していました。

◆履修科目

ANTH-1011 A Intro to Anthropology

同女の正規授業でも文化人類学の授業を履修して、それが興味深いものだったので、MTA でも履修することにしました。内容は、考古学などを含む人類の発祥、文化、社会の構築のされ方、民族間や男女間の違いなどで、学ぶ量はすごく多かったです。

COMM-1011 A Business Studies

将来は国際的に働きたいと考えていますが、同女で商業学などの授業をあまりとっていなかったので、海外でビジネスの基礎を勉強出来たらいいなと思い履修しました。内容はビジネス用語、ビジネスのしくみ、IT 技術、国際貿易などでした。

HIST-2731 A The Making of Modern Asia

日本で学ぶアジアの歴史と英語圏でのそれの間にはなにか差があるのではないかという関心があったので履修しました。内容は、大航海時代、植民地時代、アジア各地の戦争の歴史、植民からの独立、経済成長の歴史など、幅広いものでした。

RELG-1671 A Sacred Space, Holy Land

もともと国際関係学に興味があり、世界情勢に大きな影響のあるパレスチナ情勢について知りたかったこともあり履修しました。内容は、宗教そのものの性格やルーツの理解、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の起源とその性格、それぞれの関係性、エルサレムを中心としたイスラエル、パレスチナ地方との結びつきの理解などでした。

◆授業、レポート、定期試験

ANTH-1011 A Intro to Anthropology

授業は教科書中心のイントロダクション的なものでしたが、生徒の興味を仰ぐような授業の進め方で、試験内容は範囲がとても広く、難しかったですが履修して良かったと思います。

COMM-1011 A Business Studies

授業は教科書の内容だけではなく、授業日のニュースを用いたディスカッションから始まり、ビジネスにおいて役に立つ知識や技術を得られると共に、自分のアイデアや解決策を求められるような課題もあり面白かったです。

HIST-2731 A The Making of Modern Asia

授業は教科書に基づいたものをより具体化したようなものでした。授業内容に関するビデオもよく見ました。その中には残酷なシーンを映したようなものもあり、より真実に近い歴史を教えているようでした。課題はとても多く、時間のかかるものでしたが、情報収集と、それを自分の言葉で説明する力がつきました。課題をしっかりしていた分、それが同時に試験対策にもなっていたように思います。

RELG-1671 A Sacred Space, Holy Land
授業ははっきり言って、専門的な語句がよく出てくるので分からないことが多かったです。宗教がどのようなものであるかさえもよく知らなかったので、教授が貸し出してくれた関連本を読み理解しようと努めました。この授業が一番本読みの量が多かったと思います。課題も多かったですが、自分が知りたいことを勉強しているという感じでしたので頑張れました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブ活動ではないですが毎週２回フィットネスセンターで行われるズンバというダンスに参加していました。たくさんの生徒が参加して、明るい音楽に合わせて踊るのでとても楽しく、良いリフレッシュとエクササイズになりました。あと、モザイクという国際交流サークルのようなものにも参加していました。たくさんイベントがあり、友達がたくさん出来ました。

⑥ 現地での住まいについて

語学研修期間中はホームステイでしたが、１０年間ほどホームステイ受け入れをされている家庭だったので安心感がありました。バス停から凄く近くて便利だったし、設備も充分にそろっていました。食事は初めて食べるようなものや口に合わないものもありましたが、良い経験になったと思います。なによりホームステイ先の友達に恵まれ、毎日楽しく過ごすことが出来ました。

規科目履修期間では寮での二人部屋暮らしでした。事前に希望していた寮とは違う所でしたが何よりキレイな寮で、シャワールームも、部屋の中にあるわけではないですが個室で使いやすかったです。食事は毎食ミールホールを利用しました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

留学中、長期休暇はありませんでしたが、語学研修期間中の三連休に語学学校の友達とニューヨーク旅行へ行きました。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

語学研修期間中に日本の家から SPI 対策の本を送ってもらいましたが、あまり時間がなかったので十分には出来ませんでした。あとはリクナビなどの登録はしましたが、現地での勉強の方が忙しくてこれといった就職活動はしませんでした。自分がどんなことが得意かなどの自己分析や、どんな仕事に就きたいかなど業種選択は頭の中で考えている程度でした。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中は日々新鮮な経験、出会いがあったので毎日充実していたように思います。新しい

人と出会い親しくなり一緒に出掛けたりするのが楽しかったです。最も思い出に残っていることは選べません。（笑）それくらい、楽しいことに溢れていました。自分が自然と英語を話せるようになっているという実感も嬉しかったです。

②留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

正規科目履修期間中はとにかく勉強がハードでした。徹夜も何回かしました。日本食が恋しい時期もありました。しかし、周りに留学生という自分と同じステータスの子がたくさんいたので、刺激にもなったし、同時に安心感もありました。あと、寮での暮らしの中で、キレイなバスルームがとてつもなく汚く使われている状態が何回もあって、それにはうんざりしました。自分がパーティー寮にいたこともありますが、自分の部屋で勉強したくても部屋が振動するほどの爆音が流れていたりして、とても勉強出来るような状態ではなかったのも残念でした。

③文化・習慣の違いなどで驚いたこと

とにかく親しみやすい親切な人が多かったです。分からないことがあれば知らない人でもすぐに聞けたし、あちらから聞いてくれたり、教えてくれたりもしました。日本で感じる他人との距離やタブーみたいなものがあまりない様で、誰とでも友達になれるような感覚でした。実際、私もカフェで隣にいた人とおしゃべりして友達になったりもしました。また、感情を素直に表現している感じで、電話の相手に向かって思いっきり怒鳴っている人もよく見かけましたし、知らない人同士で楽しくおしゃべりしている光景もごく普通といった感じでした。あと、歌っている人もたくさんいました。店員さんも歌って踊っていましたし、駅のホームでも若い人たちが歌いだした歌に、周りの人も混ざって歌い始めるというシーンに遭遇しました。（笑）

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、自分が興味のある分野はとことん勉強出来る環境があったことです。田舎の小さい町にある大学ですが、生徒たち自身で学校を盛り上げよう、大学生活を楽しもうとしている感じがすごく楽しかったし、先生たちや図書館などの施設のスタッフたちもとても親しみやすく、出来る限りフォローして下さったので、思う存分自分の勉強や活動に取り組むことが出来ました。

悪かった点は特にありませんが、しいて言えば関西学院大学からの大勢の留学生がよく日本語を使うので、英語だけを話し、聞きたいと考えていた私には少し苦痛でした。あとは、トロントのように息抜きにショッピング出来るようなところが近くになかったことと、日本料理や韓国料理を食べられるレストランが近くになかったことくらいです。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは比較的大きいものでしたが、持っていきました。語学学校にも大学にもコンピュータラボはありましたが、自分のパソコンはあった方が確実に便利です。日本食が恋しくなった場合のことを考えると、ふりかけなど簡単なものでも持っていっておくと良いと思います。長期滞在するとどうしても荷物が増えるので大きめのカバンなどはあると移動の時に便利です。眉用カミソリ、洗濯ネット、上質のシャーペンの替え芯は現地で見かけなかったので持って行った方がいいと思います。また、風邪のひき始めなどに飲む総合風邪薬はいつも使っているもの方が安心ですしあると良いと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果

当たり前ですが、スピーキングもヒアリングもリーディングもライティングも全部伸びました。語学研修期間中は英語力向上には、とにかく会話だと思っていましたが、大学での勉強を通じてリーディングもすごく大事だなと思いました。たくさん本を読んだことで、頭の中で文章を組み立てるスピードが速くなったと思うし、語彙やその使い方、ニュアンスをより明確に、よりスムーズに理解出来るようになれたと思います。

留学を決めた理由のひとつとして、国際的視野を磨くという目的がありましたが、カナダという多国籍な国で生活し、様々なバックグラウンドを持つ人々とコミュニケーションすることで、本当にいろいろな考え、価値観に触れることが出来ました。また、外から日本を見ることで今まで気づかなかった日本の性格や良い所、良くないところを知りました。留学せずに日本にいたら、きっと外国人というだけで少し身構えてしまいがちな自分がいたと思いますが、留学を経験したことで、国籍を問わず初対面の人と接するということを存分に楽しめる自分になれたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学前には不安もありましたが、行動に移してしまえばあっという間でした。やりたいことを好きなように出来るのが学生時代と思うので、少しでも留学しようかなと考えている人には、ぜひ実現してもらいたいです。留学してみて、後悔は一つもありません。また、海外というだけでモチベーションはかなりあがります、なのであまりネガティブなことは思い描かずにやりたいことだけを想像して、それを行動に移してほしいです。現地で上手くいかないこともあります、でも今ではそういう事を経験出来るのが留学だと思えるようになりました。頑張ってください。

Ⅳ．写真

語学学校の生徒大勢で、ビーチで遊んだときの写真です。初対面の人もたくさんいましたが本当に楽しかったです。語学学校ではこのようにたくさんの人と友達になれる機会がたくさんあります。この時はじめて出会った友達は今でも連絡を取り合う仲です。

2012 年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

Ｍ.Ｍ.　社会システム学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

留学決定から出発までの間は勉強面でいうとどうしてもモチベーションが下がりやすい時期といわれているようで、これから留学するからより一層の努力が必要というのはわかっているものの、それはとても抽象的で何を勉強したらいいのかわからなくなりがちです。実際私もいったん決まってからは逆に今日本でできること、たとえば友達とできるだけ会うなど、そういったことに偏りがちでした。しかしこのままだといけないと思い３月の下旬あたりに TOEIC の試験をわざともってきて、それのために勉強するといった自分のゴールを設定し勉強を継続することに焦点をあてました。

また準備として、ビザ申請や何を持っていくかなどがありますが、ビザ申請の場合、企業を通して取得していただいたため、スムーズに進みました。ほかに現地に何を持っていくかなどは一緒に行く友達と相談しあったり、同じ大学へ行った先輩方にメールで聴いたりなどの方法が一番有効的だったと思います。

②現地到着後

現地到着後、私の場合出迎えサービスを申し込んでいたため、移動などに手こずることはありませんでしたが、出迎えの方が１時間ほど遅れて到着されたためその間本当に不安になり焦るなどというハプニングもありました。語学学校のオリエンテーションは午前中で終わるほどの短いものですが、個人的には友達を作るいい機会だったように思います。

③語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

語学学校は Union Station というダウンタウンの中でも最も大きな駅のひとつが最寄りで、とても便利な場所に位置しています。朝は特に通勤・通学のため人通りが多く、TTC（地下鉄、バス、ストリートカー）はすべて込み合います。

◆授業内容、課題、試験

語学学校の授業は、大学準備のコースにおいては大きく分けて２セクションに分かれています。まず初めの２か月は、essay や presentation の仕方、reading、listening の有効的な進め方などを学びます。比較的少人数のクラスなので聞きたいことや、わからないことなどたくさん聞くことができると思います。課題はやはり発展的で essay もたくさんの reading をこなさないとできないものやトピックが、今までのものよりアカデミックで自分の苦手な分野であるなどと苦労しました。プレゼンテーションもより実践的で先生からはよかった点、悪かった点をしっかり評価してもらえます。今から考えるとこのエッセイ

やプレゼンテーションの課題や練習は本当に Mount Allison に行ってから役にたちました。最後の週は特にそれらの課題が、一気に出されて大変でしたが、大学へのよい下準備だったように思います。

④正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

Mount Allison University のある Sackville にうつってからは、Toronto と違ってより勉強に集中できる環境に思います。ほかにも Toronto でも街の人はとてもフレンドリーだったのですが、それよりも一層フレンドリーで驚きました。大学の校舎内もすべて Wi-Fi がとんでおり便利でした。

◆履修科目

履修科目については、200 番台の Commerce の Organizational Behavior、Geography の Geography of Economic Industry、100 番台の Micro Economic、Biology の計４科目を履修しました。

Organizational Behavior:まさに私が学びたかったことの１つで、企業や組織が雇用者に対してどのように行動するべきかというのをもとにさまざまな theory を例としながらケーススタディーを中心にして学びました。たとえば、労働者の生産性を向上させたり、辞職率を低くしたりするためにはモチベーションを上げることがまず有効的で、それは金銭面だけで解決するものではなく、そのほかにさまざまな側面が存在するというものです。この授業はテストだけでなく、グループワークであるプレゼンテーションにも重点を置いており、私の中では最も困難な科目でした。

Geography of Economic Industry:地理学というよりも産業についても学べるということで履修しましたが、これが好きな授業の一つでした。内容的には流通や産業のハブ、生産性の進歩などほかにさまざまなトピックを取り扱ったのですが、教授が日本に数年住んでいて、日本が大好きということで、レクチャーの中でも大阪の堂島、愛知の豊田市、東京、横浜などケーススタディーとして多く扱いました。しかし、この教授がただ日本好きなのでなく、教科書にも築地マーケットや TOYOTA による生産性の向上など多く掲載されており、今まで、“中国産業の発展の一方で日本は欧米からしたらただの小さな島国だ”という今までの概念が覆された気がしました。外から日本の技術や発展、自動車界をどのようにリードしてきたのかなど知ることはとても興味深かったです。

Micro Economic:ただただ、苦戦しました。おそらく高校の数学をカバーできていれば、大体はいけると思います。しかし、ポイントをつかむまでが時間がかかり、ネイティブ、インターナショナル、関わらず多くの人が苦戦していました。週一回あるチュートリアルはチューターが丁寧に復習形式で説明してくれるのでよかったです。普段の大講義室での大人数の授業と違って、チュートリアルは 20 人ほどの少人数だったのでその点もよかっ

たです。

Biology:一番好きな科目でした。これも大人数の大講義室でうけるのですが、教授の説明や取り扱う内容が面白かったです。ラブラトリーの時間には電子顕微鏡を使ったり、解剖をしたりと思ったよりもイントロダクション科目にしては実践的なものを扱いました。

◆授業、レポート、定期試験区

レポートの有無についてはそれぞれ授業によって違いましたが、history, economic は比較的 assignment が多いイメージでした。Introduction 科目は大人数授業なので、プレゼンはないに等しいと思います。授業のレベルが上がるにつれてどんどんプレゼンやディスカッション、エッセイの書かなければいけない量が増えると言っていいと思います。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

本当は自分の興味のある分野のアクティビティなどに参加したかったのですが、時間的に厳しいものがありました。しかし、その中で mentorship program というものに参加していました。これは、インターナショナルな学生たちから構成されるプログラムで、新入生のインターナショナル学生一人一人に、mentor がついてアカデミックな相談や各自の国についてなど学びあうというものです。 この mentor は共通の趣味や履修科目によって決められ、最初から何かしらの共通点がお互いにあるので、とても話しが弾みやすいです。いくつか、イベントや（団体バスでの）１日旅行などが企画され、mentor と関わる機会を与えられます。私の場合、パキスタン出身の Sackville に越してきてから１０年という３年生の女の子が mentor となりました。 彼女とは学校内で開催されるイベントやカフェ、farmer’s market に一緒に行きました。何度か行ったカフェでは、それぞれの国の言葉の特徴や文化、お互いの趣味について盛り上がりました。

⑥ 現地での住まいについて

語学学校にいた頃の住まいとして、ホームステイをしたわけですが、私のファミリーは私を本当の家族のように接してくれて、夜のディナーのあとのティーやデザートをいただきながらする家族での団欒は、１日のハイライトと言ってもいいほど濃い時間でした。食事も基本、朝ごはん、お弁当はマザーが、ディナーはファザーが作るといった分担型で、それぞれ本当に美味しかったです。主に朝はシリアルとフルーツ、お昼は前の日の作り置きとサラダ、フルーツ、スナック（チョコレートやクッキー)、ディナーは主にステーキとサラダやポテトなどで毎回、外で時間をかけて肉を焼いたり、ドレッシングは手作りであったりと食を楽しむ家族でした。また通学に関してはステイ先から Union Station までは大体 40 分ぐらいで、授業は８時半から始まるので比較的早い時間から通学していました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

Mount Allison の場合、長期休暇はありませんでしたが、カナダでは何度か３連休がありその間は友達とツアーで Quebec 州に行ったり、Nova Scotia 州に行ったりと少し遠出をし

て過ごしました。

⑧留学期間中の就職活動の取り組み

留学期間中は全くと言っていいほど就職活動の準備はしませんでした。性格上、一度心配になると気になってしまいほかのことに集中できなくなるので、できるだけそのような情報は避けていました。実際SPIや常識問題のテキストは買って持って行っていたのですが、授業の予習復習でさえ毎回完璧なわけではないのに、それらにまた時間を割くことが有効とは思わなかったので今しかできない留学活動に専念しようとおもいました。それでも、１２月になった直後から twitter や Facebook を通して日本の友達が、突然に就活モードに入り始めたときはリクナビやマイナビに気休めにと登録だけはしました。１２月は最後の成績を左右する final exam の時期だったので本当にストレス気味でした。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことについてまず Toronto で多くの友達を作れたことと、やはりホストファミリーの存在が常に大きかったことでした。語学学校に入った最初の２週間は、英語もまだ意思疎通をはかるには不十分で、伝わらなかった時など一回一回少しながらショックを受けていましたが、ホストファミリーはディナーの時間に毎日１日の中で語学学校での授業も含めわからなかったこと３つを聞くことというルールをつくってくれたので、会話をする機会をくれたことも楽しく過ごせた理由の一つでした。

②留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中はやはりはじめ、今まで日本語が当たりまえだった身の回りの表示、飛び交う言葉、そして伝える言語が、すべて英語に代わり、自分の伝えたい気持ちを伝えられないもどかしさや伝えられないからという理由で伝えることをあきらめてしまうことへの悔しさでした。帰国するまでこのもどかしさや悔しさが完全になくなることはありませんでしたが、徐々に伝わったことへのうれしさや成長への実感が増えていったようにも今思い返せば思います。ほかに苦労したことは、大学が始まり、特にいつも一緒にいたヨーロッパやカナダ出身の友達たちは言語への壁がほとんどない状態でついていくのが大変で落ち込んでいたりしている一方で、私はまだ英語への壁を越えられずにいるのにどうしたらいいのだろうと自分よりできる周りの友達と比べ、劣等感を感じつらく思う日が多くありました。

③文化・習慣の違いなどで驚いたこと

まず驚いたことは人の自由さでした。私は、これは文化の違いだと思っているのですが、カナダでは、人は皆男女、世代関係なく、道や電車でリンゴやバナナを丸かじりしていたり、雨が降ればビニール傘ではなく自分のジャンパーについているフードをかぶります。日本ではやはり、周りを気にして周りから見ればどうだろう？というように常に考える傾

向があるため周りから浮いて見える行動は避けるのだと感じました。それはほかのところでも多く感じることがあり、たとえば 150 人以上の大講義室での教授の説明中の発言も、多くの生徒が躊躇せず質問します。日本ではほとんど見られない光景だったので本当にこのような環境でのびのびと生きるカナダの人々に羨ましさも感じました。しかながらこのカナダの個々の行動を尊重するイメージの文化は、逆に公衆トイレや電車などが汚いというマイナスイメージにも私の中でつながったようにも思います。と同時に日本の相手を思いやる気持ちをもった文化に気づかされた部分でもありました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

インターナショナルの学生が多かったこともあり、世界中にたくさんの友達を作ってかえって来ることができました。そして、大学が始まる前からも特に履修に関してのサポートが厚かったです。悪かった点は今となればなかなか思い出せないのですが、しいて言うなら冬物の衣類やブーツなどを入手する場所までの交通手段があまりなかったので Sackville の外に出るのには苦労しました。

②日本から持っていって、特に役に立ったもの

日本から持って行って役にたったものは基本的に化粧水や日焼け止めなど直接肌に使うもの、余分のペン類など自分の使い親しんだものや文房具などはやはり日本製のものがクオリティーもいいので、持って行って正解でした。パソコンはもちろんもっていきました。特に大学内では上記でも書いたように、Wi-Fi が飛んでいるので図書館でエッセｨを書くときには便利でしたし、時々授業のグループワークでそれぞれが web 上のスライドを見るのにもって来なければいけない時もあったくらいだったのでパソコンは必需だと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果

語学力は今現在 TOEIC などの試験はまだうけられていないので数値的な成果は見られていませんが、実感的には映画を見るととてもリスニング力の向上を感じます。初めて Toronto で映画を見たとき何を言っているかわからないフレーズが多くを占めていましたが、今はすべてのジョークまでとはいきませんが大体のフレーズもワード単位で聞き取れるぐらいまで成長しました。また、私の留学の目的のひとつであった環境問題や環境保全に対する知識をつけることも、カナダのニュースを見たり、人の話を聞いたり、それに関した授業を取ることで学ぶことができました。そして、文化や考え方の多様性への理解などもこの留学経験を通して学んだ大きなものの一つであったと思います。人の考え方の根本となるものには、教育だけでなく、自分や親の母国の国柄や文化、宗教、本人の経験（トラウマなども含む）が大きくかかわっていることを目で、耳で、肌で感じました。やはりこれは、同じ宗教（または無宗教に近い）、同じ人種、同じ言語など「違い」というものが少

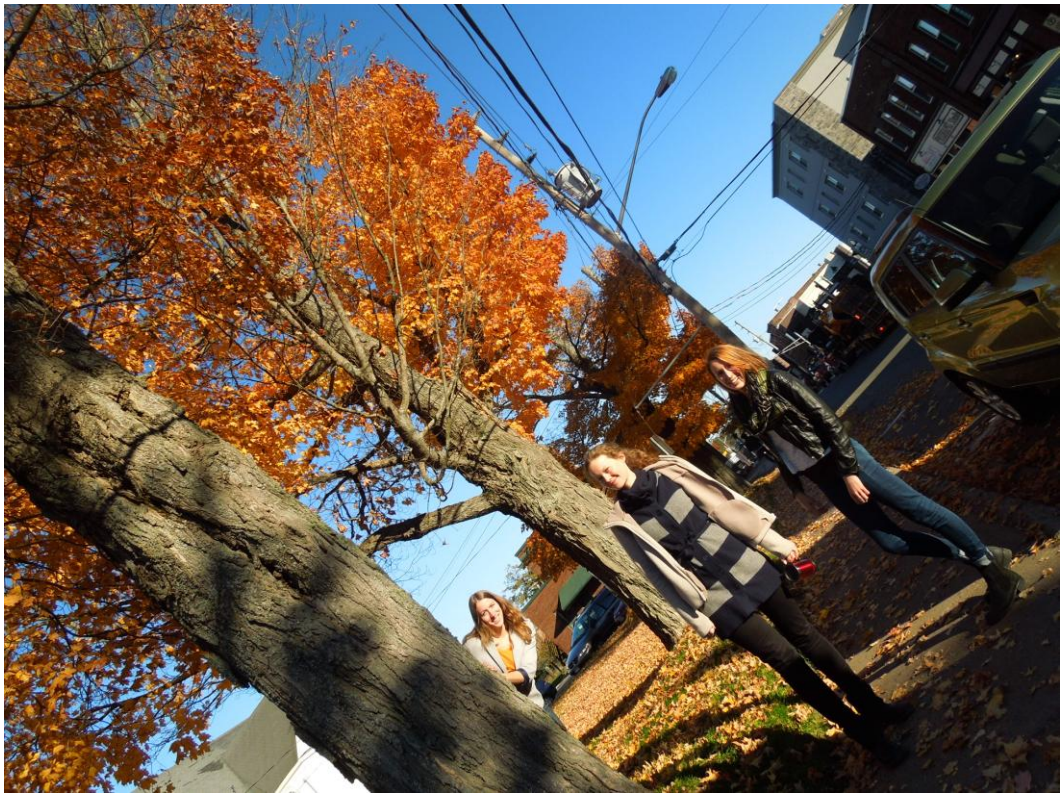
ない日本では体験しり得ないことがカナダへの留学を通して、できたと思いました。

④これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

これから留学しようと思っている学生の皆さんには、個人的に協定留学制度を利用しての留学というものはおすすめしたいです。休学して留学するのと違い、大学の正規授業を受けられることが一番のチャレンジでもあり、それを経験することで大きく成長する機会のように思います。まだ Mount Allison 大学に決めていないという人でも、何を勉強したいのか、「自分の同志社女子大で専攻している専門分野を深めたい」のか「新しい分野や興味があってでも同志社女子大にない授業だから受けたい」のかなど、自分の目的をもって大学選びをすると履修するとき楽になったり、授業に対するモチベーションも維持できると思います。Mount Allison 大学は本当に素晴らしい学生がたくさんいて、International Office の先生がたや教授、生徒が運営する International Orientation での実行委員みんながその時だけでなく、普段であったときでも名前を覚えて声をかけてくれたりと支えらながらよい留学生活を送ることができました。それだけでなく、語学学校のあった Toronto は繰り返しになりますが、日本と違い多様性に富んだ街で本当に多くの刺激を受けます。これらの点から私は、Mount Allison 大学への留学としておすすめできる場所だと思います。

Ⅳ．写真

これは私の寮で、よくこのような感じで隣部屋の子だったり、一緒の授業をとっていたりしている子達がたくさんルームメイトと私の部屋に来てくれています。寮に住む多くが１年生で、やはり家族を離れ初めての寮生活なので友達の存在は大きいみたいで、みんな一緒にいることが多いです。



カナダの紅葉の時期は日本より１か月ほど早く、夏が終わるとぐっと一気に冷え込みだします。写真の奥に見えるのが、Sackville のダウンタウンです。彼女らは一番仲良しの友達のうちで、オランダ、ドイツ、スウェーデンから来た私と同じ１セメスターの交換留学生たちです。

2012年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

A.T.　社会システム学科３年次

Ⅰ．留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは学内で行われる協定大学先ごとのガイダンスを受けたり、語学学校をトロントかバンクーバーのどちらにするか、留学期間をいつからにするかを決めたりしました。ビザは業者に頼んだのですぐに取得することができました。航空券は2月初めに購入しました。あと現地通貨がいつでも引き出せるようにりそな銀行でキャッシュ兼クレジットの機能がついたカードを作っておきました。私は留学が決まる前から2月中旬に手術をして入院することが決まっていて、退院してすぐの出発は体のことが心配だったので、親と話し合って4月下旬ごろに出発することにしました。退院して落ち着いてからは毎日バイトの日々で空いた時間に英語の勉強をしていました。

②現地到着後

空港に着くと現地の日本人スタッフの方が待っていてくれて、車でスムーズに私のホームステイ先まで送ってくれました。車内でスタッフの方とお喋りをしながらだいたい1時間弱くらいでホームステイ先に着きました。ホストファミリーは優しい方々で、時差ボケで疲れている私を気遣ってくれたのですごく安心できました。語学学校のオリエンテーションは学校に通う初日に行われて、同日にレベルチェックテストも行いました。

③語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

語学学校はダウンタウンのビジネス街に位置していて、はじめは学校がどこにあるのかわからず少し迷いましたが、近くに大きなショッピングセンターもあってすごく便利でした。語学学校が入っているビルの一階にはTim Hortonsのカフェがあって休み時間には語学学校の人たちがたくさんたまっているのが印象的でした。

◆授業内容、課題、試験

私は学校に行き始めてすぐに他のクラスメイトがほぼネイティブ並に喋れるような UFC（University Foundation Certificate）を受け始めたので、初めは自分のSpeaking力のなさに周りと自分を比較しすぎて辛いときもありました。今思うとちょっとでも学校に慣れておくためにUFCを受け始める前に通常のESLのコースを受けておけばよかったなと思います。UFCの2か月間は午前中の2コマはReading, Writingを中心とした授業で主にエッセイの書き方を学びました。午後の1コマはSpeaking, Listeningを中心とした授業で主にディスカッション、プレゼンテーションの仕方を学びました。毎日たくさん課題をだされて大変だったのを覚えています。UFCが終わったあとはIELTSのコースを2か月間受けました。これはReading, Listening, Writing, Speakingをまんべんなくまく学ぶコー

スで、UFC のころに比べると課題の量がかなり減ったのでリラックスして授業を受けることができました。でも Speaking が苦手な私にとって同じお題に対して 2 分以上喋りつづける練習を何回もする授業のときは大変だったけど、すごい力がついたと思います。

④正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

モンクトン空港に着いた瞬間周りに何もなさ過ぎて若干焦りました。語学学校があった場所と比べると、食料品など必要最低限が買えるお店しか大学付近にはありません。30 分くらい車かバスで行くと大きなショッピングモールが唯一ありましたが、何度も行くのはめんどうなので基本大学付近で買えるもので済ませていました。

◆履修科目

Anthropology to Introduction

文化人類学で言語、文化、考古学、自然などの基礎を中心に学んでいきます。１回の授業ごとに 20 ページほど予習を進めてこなければならなかったのでリーディングにすごく時間をとられました。

Quest for Enlightenment

ヒンドゥー教や仏教などアジアの宗教の成り立ちを学んでいきます。この科目の教授の奥さんが日本人らしく、授業内でもたまに日本のことをとりあげてくれたので、授業内容も身近に感じることができ、楽しんで授業を受けることができました。

Sacred Space, Holy Land

宗教の聖地、文化、歴史などを学ぶとともに、宗教に対する考えを深く掘り下げて学んでいきます。私はこの科目に対する基礎知識が少なすぎて、理解するのに一番悩ませられた科目でした。

◆授業、レポート、定期試験

日本の大学のように各科目を週 1 で受講するのではなく、こちらでは各科目を月水金で週 50 分×3、または火木で週 80 分×2 で受講していくスケジュールでした。レポートの課題がだされても、他の科目のリーディングの予習もしながらレポートも進めていかなければならなかったので、本当に時間の使い方を考えないとなかなか上手くいきませんでした。定期試験は選択式やエッセイを書くものなど科目によってそれぞれで、どの科目もだいたい 2～3 時間でした。

⑤クラブ、課外活動、ボランティア活動

勉強に時間をとられていたので何も参加していません。

⑥現地での住まいについて

語学研修期間は 4 歳と 5 歳の小さい子供がいる 4 人暮らしの家にホームステイしていました。語学学校まではバスと地下鉄を使ってだいたい 40 分くらいのところでした。この家

はよくホームステイを受け入れていて、留学生の部屋は地下にあり、ホストファミリーが使うバスルームとは別に留学生用のバスルームが地下に完備してあったので、変にプライバシーを干渉されることなくリラクッスして生活できました。ホストマザーの職業がカイロプロテックということもあって、食事も健康に気遣っていて、味付けも日本人好みだったので、特に食事に対する不満はありませんでした。週末になるとホストファミリーの友達や親戚を呼んで家の庭などでよくパーティしていたのを覚えています。大学に移ってからはキャンパス内にある寮で暮らしていたので、授業が始まる 10 分前に寮をでれば十分間に合う距離でした。私の寮は食堂に隣接していて、お腹が空いた時にいつでも食べにいけるので便利でした。食堂のご飯は脂っこすぎたり甘すぎたり和食が好きな人はあまり好まないかもしれません。寮の中には Quiet Time というルールがあって平日は 10PM から、週末は 2AM から始まります。なので平日は基本そこまでうるさくないですが、週末になると現地の学生は夜中までお酒を飲んで音楽を爆音でかけていて、とてもうるさかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はありませんでした。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

就活サイトに登録して希望する業種をなんとなく考えておきました。あと留学中は就活の進み具合が全くわからなかったので、日本にいる友達に Skype で就活の現状教えてもらったりして、帰国したらなるべくすぐに就活に切り替えられるように雰囲気だけはつかんでおきました。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

この留学では本当にたくさんの友達ができました。みんな世界各国から来ていて、この留学に行っていなかったら出会えなかった人ばかりだと思うと、本当に行ってよかったなと思います。あと私は観ることも自分の視野を広げるよい勉強だと思い、留学中に時間さえあればたくさん旅行に行きました。特に帰国前に一人でメキシコとシカゴに行ったのはすごく思い出に残っています。あえて一人で行ったのは最後にこの留学中に養った自分の語学力と可能性を試したかったからで、もっと世界を知りたいと思わせてくれる大きなきかっけになりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

語学学校に通い始めたばかりのころ、まだカナダに来て数日しか経っていないのに、急に周りがネイティブ並みに英語を話せるクラスで授業を受けなければならなくて、自分が伝えたいことがなかなか英語で伝えられなくて精神的に辛かったし悔しかったです。大学に移ってからは、現地の学生は余裕で遊んでいるのに、留学生の私は勉強にかかる時間が倍

以上で、遊びに誘われても断らなければならないことも何度かありました。

③文化・習慣の違いで驚いたこと

基本地下鉄やバスは時間通りに来ません。日本なら少し遅れただけでも不満を言う人がいるのに、カナダでは日常茶飯事すぎて誰も文句を言いません。そういう点でもカナダの人は心が寛大なのかなと思いました。あと寮のミーティングで何度注意されても、自分で散らかしたものを片付けないでそのまま去って行く人が本当に多く、マナーの悪さに驚かされました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、田舎だったので学校の周りにスーパーや薬局くらいしかなく、遊びにいけるような場所が特になかったので、常に勉強に集中することができました。悪かった点は、キャンパス内は無線 LAN で基本インターネットは使えますが、寮の中はネットに繋げづらかったです。特に夜はみんなが使用するからかわかりませんが、ほぼネットに繋がらない日もありました。

②日本から持っていって、特に役に立ったもの

ノートパソコンは絶対に持っていかないと不便だと思います。語学学校と大学ではどちらもエッセイを書くときは自分のパソコンが必須でした。シャンプーなどを含めた化粧品類や薬は外国製品のものが合うか不安だったので、すべて日本から持っていきました。北米に留学といえば絶対に太って帰ってくるというイメージがありますが、私は絶対に太りたくなかったのでｋｇの表示がでる体重計を持っていきました。それ以外にも現地で買えなかったらと思い日本から色々持っていきましたが、現地でも普通に調達できると思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果

まだ帰国してから受けた TOEIC のスコアが返ってきていないので、点数のように目に見えて語学力の変化がわかるようなものがまだありませんが、確実に Reading, Listening, Writing, Speaking すべて向上しているのが自分でもわかります。初めのころはたどたどしかった英語での会話もたくさんの人と会話をするうちに、この時にはこう言えばいい！という会話の段取り的なものがわかるようになりました。特に Listening は podcast をダウンロードして時間があれば聞いていたからか、CNC News などで話されていることがほぼわかるようになるまで向上しました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私にとって留学の８か月間は、人生で一番内容の濃い時間が過ごせたとともに、チャレンジでもありました。留学している間は毎日毎日勉強で辛くなるときもありましたが、長い人生のうちこれだけ頑張るときが１年くらいあってもいいかもしれないと帰国した今なら

思えます。それにこの留学では世界各国のたくさんの人に出会うことができて、カナダの文化だけでなく世界中の文化も知ることができました。そして私がこの留学で何より成長できたと思う点は、人間的に大きくなれて国際感覚が身についたところです。私は留学に行く前までずっと実家暮らしで親に頼りっきりの生活をしていました。日本を出発する日に、空港で親と離れて手荷物検査が終わったあと、「これから 8 か月も両親や仲の良かった友人に会えなくなる、自分がしっかりしないといけないんだ、、、」と感じ取った瞬間、涙が止まらなくなって号泣したのを今でもよく覚えています。でも母国語が通じない地でたくさん旅行をしたり、飛行機を乗ったりしているうちに、最終的にはあまり治安がいいとはいわれていないメキシコに一人で旅行に行くようになるくらいチャレンジ精神がつきました。それとともに留学のチャンスを与えてくれた親には本当に感謝したいです。この留学は人生の財産になったとともに、人生のターニングポイントになりました。なので、いま留学を目指している人には、絶対にこのチャンスを逃してほしくないです。留学のチャンスは誰にでもめぐってくるものなので、あきらめずに頑張ってください。

Ⅳ. 写真

語学学校の”International Day”という行事で、当時授業を受け持ってくださっていた先生との写真です。各国の食べ物、文化、伝統的踊りを紹介しあったりしました。

2012 年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

大学で定期試験期間に入る前、すべての授業が終わり”Last Class Bash”というのが食堂で開かれたときにドレスアップして友達と撮った写真です。

T. M. 英語英文学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

11 月に留学が決定してから 2 月前半までは授業の課題やレポート、期末試験に追われていました。またアルバイトや MOS の資格支援講座などでも忙しかったです。ビザの申請は 2 月中旬までには終わらせていました。試験後から出発（4 月）までは留学の準備をしつつ、家庭教師と歯科助手のアルバイト、サークル、資格支援講座、エアライン・ホテル体験とホスピタリティスキルセミナーに参加するなど忙しいかったです。でも、春休みの間にもう少し英語の勉強をしておくべきだったと思います。（特にリスニングと日常会話など。）あと私の場合、持っていく荷物を減らすため、出発前にホームステイ先に荷物を送っておきました。（カナダに着いてから 1 週間後ぐらいに着くようにしました。）

②現地到着後

空港からは現地のサポート会社（Education Prime）の日本人スタッフの方が迎えに来てくださり、ホームステイ先まで車で送ってくれました。ホームステイ先には私以外に留学生が 6 人いて、そのうちの 1 人が日本人だったので家のルールなどを教えてくれたり心強かったです。到着した日が金曜日だったので、その日と次の日はゆっくり休んでいましたが、日曜日には留学生の 1 人の中国人が駅までの行き方や地下鉄の乗り方を教えてくれたり、ダウンタウンまで連れて行ってくれたりしました。語学学校の初日もその中国人が連れて行ってくれたのですが、少し迷ってしまったので前日にでも行き方を確認しておいた方がいいかもしれません。初日はオリエンテーションの後、プレイスメントテスト（マークシート式で Listening と Reading）がありました。それはお昼までに終わり、その後、現地のサポート会社（Education Prime）のオリエンテーションに参加しました。地下鉄の定期券、銀行口座開設、携帯ショップの紹介など、トロントでの生活について様々なことを教えてくれました。（Sackville には Royal Bank と Scotia Bank しかないので、このどちらかで口座を作っておいた方がいいと思います。）

③語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

PLI（語学学校）は Union 駅のすぐ近くにあるビルの 6、7 階にあります。そのビルの 1 階には Tim Hortons というコーヒー・ドーナツ屋があります。サンドイッチなどもあり、PLI の先生や生徒はよくお昼ご飯を買っていました。私も休憩時間に、よくコーヒーを買っていました。先生やスタッフの人もフレンドリーで話しやすかったです。印刷も自由にできるパソコンルーム、冷蔵庫や電子レンジ、自動販売機のあるラウンジもあります。教室に

よっては冷暖房が効きすぎる部屋もあったので、夏は特にカーディガンなどを持っていっておいた方がいいと思います。PLI には様々な国から留学生が来ているので、いろんな国籍の友達ができました。日本人の留学生も結構多かったですが、学校内では英語 only というルールがあったのでよかったです。

◆授業内容、課題、試験

私は協定大学に行くための準備コース UFC（University Foundation Certification)を受講する前に 1 ヶ月間、普通の ESL の授業を 1 日 3 コマとっていました。私の場合は core skills（4 技能を駆使した授業）が 2 コマ、Reading が 1 コマでした。プレイスメントテストの結果で学校側に決められますが、希望を言えばいつでも変えてもらえます。

UFC コースは 2 つの term に分かれていて、最初の term では Reading, Writing, Vocabulary の授業が 2 コマ、Speaking, Listening の授業が 1 コマでした。8 人という少人数で全員がカナダの大学進学を目指しているのでレベルは高かったです。宿題も普通の ESL の授業に比べて大幅に増えましたが、エッセイの書き方やプレゼンテーションのやり方など、大学で役立つことばかりでした。2 つ目の term では IELTS 対策の授業（TOEFL も選択可能）を 2 コマ、Writing の授業を 1 コマとっていました。

④正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学の建物はレンガ調です。大学内は基本的には wifi が飛んでいるので、どこでもインターネットが使えます。図書館も大きく、Writing Resource Centre があり、エッセイの添削やアドバイスをしてくれます。図書館や Student Centre には自習スペースもあり、夜遅くまで開いています。テスト前には図書館は夜中の 1 時まで、Student Centre は 3 時くらいまで開いています。Sackville はとても田舎の小さい街ですが、静かで街の人もフレンドリーです。スーパーや 1 dollar ショップ、小さい映画館、かわいいカフェなどもあります。

◆履修科目

7 月に自分の ID がメールで配布され、online ですべて履修登録します。(寮や meal plan もこのときに登録します。）定員があるので、早めにやっておいた方がいいといいます。でも授業が始まってから約 1 ヶ月間、登録修正期間があるのでもし空きがなくても waiting list に登録しておくのもいいかもしれません。ID と同時に MTA のメールアドレスも配布され、大学内の連絡などはすべてここにくるので毎日チェックした方がいいです。

<Introduction to Principles of Literary Analysis>

1 回生用の英文学の授業で、教授によって教え方や教材が全く違いました。なので,私は登録修正期間に 2 人の教授の授業を両方受けてみて、自分がいいなと思う方を選びました。20 人ぐらいのクラスで、poetry, fiction, drama について学び、授業中に少しディ

スカッションもありました。予習で読む量は多いです。成績はMid term1 回(poetry test)、3、4 ページくらいのエッセイ 2 回、Final exam（short answer 形式と essay1 題）で決まります。

<Introduction to Canadian Culture>

1、2 回生用の授業で、カナダの文化や政治、歴史を学びます。週 2 回の授業のうち、1 回は大教室で講義、もう 1 回は少人数の tutorial でした。Tutorial では 250 字程度のレポートを 6 回提出することで、セメスターの最後に提出する 3000 字のエッセイの文法や講成などをより良くします。この授業を受けたことで Writing のスキルが上がったように思います。また tutorial では上回生も多かったので、ディスカッションで意見が飛びかうなど刺激的でした。その分、予習や課題など大変でした。レポートの他には、tutorial でのプレゼンテーションや参加度、Mid term（short answer 形式)、Final exam（short answer 形式と essay2 題）で成績が決まります。

<Introduction to Anthropology>

1 回生用の授業で、大教室の講義形式でした。文化人類学の 4 つの分野（言語、文化、考古学、自然）を 4 人の教授によって一通り学びます。週 3 回で、1 時間に 1 チャプター進むので、予習が大変でした。Mid term2 回、Final exam（すべてマークシート形式）で成績が決まります。またテストだけでは自信がない人は 5 回の Lab、5 回の online での小テスト、Ethnography book review を追加することで配点の割合を変更することができます。

<Introduction to Psychology>

1 回生用の授業で、大教室の講義形式でした。心理学に少し興味があったのでこの授業をとったのですが、理系的な部分も多く難しかったです。教科書も大きく、結構読む量が多かったです。Mid term2 回、Final exam（両方、マークシート形式と short answer 形式)、Assignment で成績が決まります。Assignment の配点が 6 パーセントと極端に低かったので、テストで頑張らないといけないという感じでした。

◆授業、レポート、定期試験

授業、レポート、定期試験（Final exam）については上に述べた通りです。Final exam の時、International student の 1 回生は extra time をもらえたり、辞書の持ち込みを許可してもらえたりします。また、授業やレポートなどについてわからないことがあれば、すぐに教授に聞くべきだと思いました。とても親身になってくれる教授ばかりでした。特に Canadian Culture の授業の 3000 字のレポートテーマが難しく、なかなか進めることができなかった時、教授がアドバイスをくれたり上回生の中で私のためにチューターを探してくれたりしました。また Principles of Literary Analysis の教授は授業の後、いつも親身になって相談にのってくれました。

⑤クラブ、課外活動、ボランティア活動

大学では Mosaic というサークルに入りました。このサークルは International students と Canadian が一緒になっていろんなイベントをするというようなサークルでした。International students と Canadian と友達になれる良い機会になったかなと思います。その他に、学校のジムで毎週ダンスやヨガのレッスンをしていたので、たまに参加していました。また、International office 主催の Mentorship program にも参加しました。メンバー全員で日帰り旅行に行ったり、月 1 回自分達で考えたイベント（Halloween party など）を開催したりしました。私の Mentor は 4 回生のシンガポール出身の女の人でした。大学のことをいろいろ教えてもらったり、一緒にご飯を食べに行ったりしました。その人は寮ではなく大学の近くでルームシェアをしていたので、よくその家に遊びに行ったりもしていました。

⑥現地での住まいについて

〈語学研修期間〉

イタリア人のホストファザーとユーゴスラビア人のホストマザーのもとでホームスティをしていました。ホームステイ先は現地のサポート会社が手配してくれました。（出発の 2 週間前までには決定していたと思います。）家は駅から徒歩 3 分くらいで、近くに大きなショッピングモールがあったのでとても便利でした。学校までは地下鉄に乗って 40 分くらいでした。ホームステイ先には私以外に留学生が 6、7 人いたので、食事のときなどはいつもにぎやかな感じでした。留学生は多国籍（パナマ、エクアドル、コロンビア、サウジアラビア、ロシア、ブラジル、韓国、中国、日本など）で会ったことのないような国籍の人と友達になれたり、とても楽しかったです。ホストファザーもマザーも、長年留学生を受け入れているみたいで慣れている感じでした。朝ごはんはシリアルやパンなどを自由に食べていいと言われていました。昼ごはんは毎日サンドイッチを作ってくれましたが、だんだん飽きてきていました。夕ご飯は毎日 18:30 にみんなで食べると決まっていました。（もし友達と外食するときなどは事前に連絡をしておけば大丈夫でした。）とてもおいしかったです。部屋も広く、白を基調にしたかわいい部屋でした。少し壁が薄く、隣の部屋の声が聞こえてしまっていましたが…。私の場合、ホストファザーもマザーもフレンドリーだし、居心地もよかったので変えようとは思いませんでしたが、もし、ホームステイが自分に合わないと思った時はサポート会社に相談すれば、変えてもらえると思います。

〈正規科目履修期間〉

Bennett という寮に入っていました。寮は 7 月の履修登録と同時に online で第 3 希望で提出します。なかなか希望通りにいくことは少ないらしいですが、私は第 3 希望でした。Bennett は改装工事をしたばかりで、家具やシャワールームなど、すべてが新しかったです。基本的に Party house と言われていたので、いつもにぎやかでした。でも Quiet hour

というのが決められていたので、その時間はとても静かです。ルームメイトはカナダ人の音楽専攻の 2 回生でした。とてもフレンドリーで話しやすかったです。私も音楽が好きなので、楽器や好きな歌手の話などもできてよかったです。また、一緒に留学していた同女の子と、MTA で一番仲良くなった向かいの部屋の韓国人の女の子とよく夜遅くまでいろんな話をしたのも、とても良い思い出になっています。他に RA と呼ばれる Bennett のリーダー的な人達もとてもいい人ばかりでした。食事はすべて meal hall でとります。Bennett は meal hall まで少し遠かったので、行くのが面倒になったこともありましたが…。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はありませんでしたが、週末を利用して旅行には行きました。トロントにいるときは French Canada(Ottawa, Montreal, Quebec)や Niagara Falls などに行きました。正規授業が終わってからは、韓国人の友達と Toronto と New York に行きました。その後 1 人で語学研修のときにできた友達に会うために、韓国にも行きました。トロントは語学研修期間にすでに様々なところに行っていたのですが、語学研修期間に会った友達に再会したり、トロントに旅行に来ていた MTA の友達と合流して遊んだり、MTA でできた友達の実家に泊まらせてもらったり、その家でそれぞれの国の料理を作りあったり、また違った楽しみ方ができました。お金もかかりますが、（でも日本から行くより断然安いです）せっかくの機会なのでいろんなところに旅行をするのをお薦めします。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

リクナビとマイナビに登録して、何社かエントリーしたくらいでした。その他は特に何もしていませんでした。でももう少し日本のニュースなどは見ておくべきだったかなと思います。あと TOEIC は帰国してすぐに受けられるようにしておいたほうがいいと思います。2､3 月がエントリーシートのピークなので､そのときに上がった点数を書けると思います。私も 1 月の TOEIC の公開テストを受けたかったのですが、Web での申し込み締め切りが 11 月末くらいで Web をチェックした時には、もう遅かったです。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

いっぱい楽しかったこと、思い出に残っていることがあったので選べませんが、やっぱり様々な人､様々な国の人と友達になれたことかなと思います｡様々な国の文化も知れるし、いろんな考え方を知ることができて、とても刺激的でした。一緒にご飯を食べたり、旅行に行ったり、とても楽しかったです。また、母語が違うけど、とても仲良くなれた友達がいたことです。すべて言いたいことが伝えられるわけではありませんが、いろんな話をしたり、買い物をしたり、旅行に行ったり、長い時間一緒に過ごしていくうちにとても親しい関係になっていました。今でもよく連絡を取り合っています。

②留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

やはり課題が多かったことかなと思います。特に正規授業では予習で読む量、レポートの数がとても多かったです。基本、図書館で勉強することが多かったのですが、1 日何時間も図書館にこもることも普通でした。大学受験のときよりも勉強したかもしれません。でも、辛くても友達の励ましや、教授のアドバイスなど、周りの人のおかげで頑張れたと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

まずチップの習慣です。留学の始めの方は、レストランでチップを払うのをよく忘れていました。他には、大学の始めの新入生オリエンテーションが日本と全く違いました。オリエンテーションの期間は毎日がパーティーみたいでした。でもその分、International students の友達といっぱい知り合えたり、楽しかったです。また、みんなお酒の飲む量がすごかったです。パーティーの後などは、酔っている人がいっぱいいて少し驚きました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

〈良かった点〉

Sackville はとても田舎の小さい街なので、勉強に集中できると思います。大学の近くのカフェなどはかわいくて、リラックスできました。また Writing Centre や大学での勉強に役立つワークショップなど、支援制度も整っていました。

〈悪かった点〉

悪かった点というわけではないのですが､少し困ったのが MASSIE と間違われたことです。ちゃんと私は交換留学生だと言えば、わかってくれますが。彼らの待遇をうらやましく思うこともありましたが、私たち交換留学生は正規授業を受け、すべて自分達でやっているからこそ、もっと成長できると思って、できるだけ気にしないようにしていました。でもみんないい子達ばっかりだったので、友達にもなりました。

②日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必需品です。その他には

・スマートフォン（Wi-Fi のある所では LINE や Facebook の messenger を使って友達とやり取りできます。トロントにいるときはカナダの携帯をレンタルしていましたが、大学に移ってからは友達との連絡は基本日本から持ってきたスマートフォンを使っていました。大学内は基本 Wi-Fi がどこでも飛んでいるので不自由はなかったです。）

・日本の薬

・化粧品

・洗濯ネット

・日本食（トロントには日本食のレストランがいっぱいありますが、正規授業が始まってからは味噌汁やお茶、お菓子を持っていっておいてよかったと思いました。）
・デジカメ
・折りたたみ傘
・電子辞書
・クレジットカード等々

③語学力の向上等、留学の成果

まずリスニング力が確実に違います。帰ってきてから、TOEIC や TOEFL のリスニングの問題を聞いたとき、確実に聞き取りやすくなっていました。洋画やニュースもすべて完璧に理解できるわけではないですが、理解できるようになりました。またスピーキング力もついたと思います。日本に帰ってきて、観光客などを見ると英語で話しかけたくなったり、助けてあげたくなったりします。ライティング力、リーディング力も上がったと思います。エッセイも留学中だけですごい量を書いたし、リーディングも予習などですごい量を読んだので自信がついたと思います。また、留学を通して語学力だけではなく、様々なことを学べたと思います。私はもともと実家暮らしだったので親に頼っている部分が多かったですが、留学に行って自分でしなければならないことが多くなり自信がついたと思います。また多くのすばらしい人との出会いもあり、良い思い出もいっぱいでき、本当に留学行ってよかったです！

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

やっぱり、一人で知らない土地に行って言葉も文化も違う国で生活するというのはとても不安だと思います。留学というのは楽しいことだけではなく、大変なこともあります。でも、英語以外に本当にたくさんのことを学べると思います。だから少しでも留学に行きたいなと思っている人はぜひ挑戦してみてほしいと思います！私も行く前はいろいろ不安でしたが、行ってしまえば案外なんとかなります。だから、思いっきり勉強して、思いっきり遊んで、たくさんの経験をしてきてください！きっと自分の成長を感じられるはずです！応援しています！！

Ⅳ. 写真

語学学校の友達とトロントの Wonderland（テーマパーク）に行ったときの写真です。週末はよくこんな風に友達とトロントのいろんなところに行っていました。

クリスマス前に韓国人、中国人、日本人の友達と大学近くのホテルに夕食を食べに行った時の写真です。ホテル全体がイルミネーションで飾られていて、とてもきれいでした！やはり北米のクリスマスは違います！